

目次

はじめに	3
------	---

第1章 思考編 11

自分の中に常にもう一人の自分を置いて考える
「自分-仲間-その他」の相互関係で考える

1 | 自分で始める時に必要な思考 | 12

1. 受け身にならない。常に対案を作る 12
提案する癖を身につける／思考の軸を作って意見を整理し、提案する／ひとまず提案してみる
2. みんなではなく、自分がどうしたいのか 17
「聞き上手」になりすぎていないか？／まちで稼ぐ学生たち
3. 準備病から脱却し、まずはやってみる 20
動き出すと、わかることが一気に増える／3年周期で新しい分野に挑戦する
4. 「悩むこと」と「考えること」は違う 23
問題が発生した時には、一歩引いて、クールに考える／
考えているのか、悩んでいるのかを自認する／客観的な「正論」から意思決定する

2 | グループで取り組む時に必要な思考 | 27

1. 「自分たちでやる」から、「人に任せる」へ 27
規模によってやり方を変えていく／自分のモノサシを捨てる／人の入れ替えを定期的に行う
2. 説得ではなく、結果で見せる 33
やってみなければ、誰もわからない／論より証拠。結果が一番の代弁者／
案の段階で潰し合いをせず、結果で競う
3. 「ないもの」で諦めず「あるもの」で勝負する 38
「予算がない」は「知恵がない」／あるものでやれることを考える

3 | 革新的な事業に地域で取り組む時に必要な思考 | 42

1. いい人になることは二の次 42
批判されるのは良いこと／最初は理解されなくて当たり前／小さな成果を一刻も早く出す／
「安定への甘え」と「メンバー間の隔たり」に注意
2. 再挑戦こそ本当の挑戦 50
挫折こそが大きいなるチャンス／二度と地域に関わるものか！と思うのは普通のこと／
反省を活かして再挑戦する

3. 稼ぐことと向き合う 55
地域で「稼ぐ仕組み」を生み出す／本当に必要なものは必ず事業になる／
目の前にいる人にとって価値があることをやる

第2章 実践編 59

1 | 成長プロセスのイメージ | 60

2 | 成長プロセスの基本ステップ | 62

3 | ステップ別解説 | 66

STEP 1. 単発活動メンバー：自分のウリを持って取り組みに貢献しよう 66

● 木下の体験談

- ① ITスキルで貢献 ②リアルな接点をつくることで貢献 ③公園建設に人手で貢献

○ 挑戦してみよう

- ①まちの掃除企画 ②イベントのスタッフ

STEP 2. 単発活動マネジャー：面白い企画を立てて参加者を率いよう 73

● 木下の体験談

- ①都立農芸高校等と連携した商店街での商品販売 ②商店街 IT 教室

○ 挑戦してみよう

- ①トークや音楽系ライブイベント ②遊休不動産を活用したイベント ③DIYワークショップ

STEP 3. 継続活動メンバー：自己管理しながら要領よく動こう 79

● 木下の体験談

- ①大豆トラスト my 豆腐作戦 ②生ごみマイレージ

○ 挑戦してみよう

- ①地域情報を発信する活動 ②全国的な活動の輪に加わる ③「勉強会+実践」のセットで取り組む

STEP 4. 継続活動マネジャー：変化にも対応できる継続力を養おう 86

計画を常に修正し続ける／継続することを目的にしない

● 木下の体験談

- ①メンバーリスト / WEB 管理運営 re-net ②破壊され、赤字になったりサイクルマシーン

○ 挑戦してみよう

- ①地域体験企画の運営 ②営業先回りの地域ブランディング ③公民連携による社会実験